

(1) 目的

本町においては、男女共同参画社会基本法に基づく市町村男女共同参画計画として、平成23年2月に「第3次さむかわ男女共同参画プラン」を制定した。

また、本計画は、寒川町総合計画「さむかわ2020プラン」に基づく分野別の基本計画の一つでもある。

第3次計画は、平成23年度から平成27年度を計画期間とする本町のあらゆる分野にわたる計画であり、その推進に当たっては、全庁的な取り組みを必要とする。

各事業にわたる計画の進捗状況を確実に把握し、その評価を行うことにより、計画の実効性を確保し、男女共同参画社会の実現に向けた諸施策を推進する。

(2) 評価の対象及び方法等

【評価の対象】

①事業実施担当課が実施する各事業の評価

各事業ごとに、事業実施担当課が自己評価を行い、協働文化推進課において、その実施状況を取りまとめ、さむかわ男女共同参画プラン推進協議会（以下「推進協議会」という。）に報告し、意見を伺う。

②基本目標の評価

第3次さむかわ男女共同参画プランで定める4つの基本目標の評価は、各事業の評価内容を踏まえ、推進協議会において実施する。

推進協議会では、各基本目標が計画期間の中でどの程度進んでいるのか、遅れている部分についてはどのようにして進めるべきかなどについて、総合的な広い観点から評価するものとする。

なお、この基本目標の評価結果は次期計画の策定に関し重要な参考資料とする。

【評価の方法】

1. 進行管理表（別紙）により、各事業ごとに、事業実施担当課が自己評価を行い、さむかわ男女共同参画プラン連絡会（以下「連絡会」という。）に報告し、推進協議会へ最終報告を行う。

【各事業の評価基準】

事業実施担当課が、目標の「達成度」、「今後の方向性」について自己評価を行う。

判定区分は下記のと+おり。

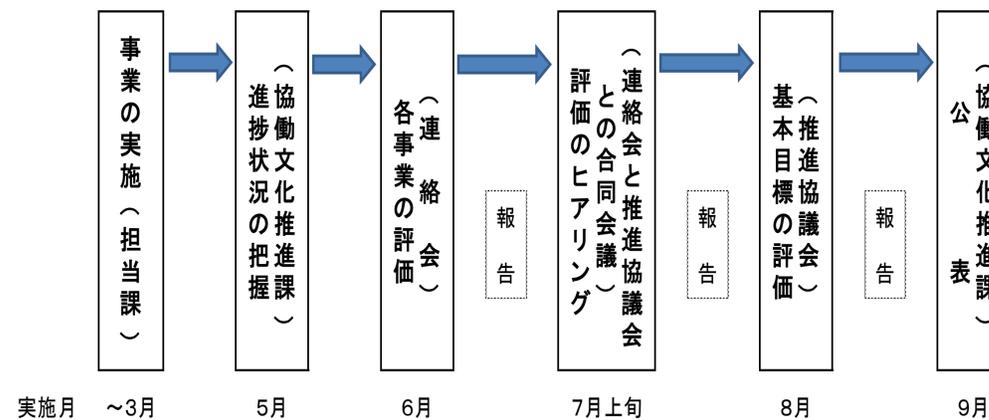
【目標の達成度】

- A：概ね目標達成
- B：目標に向け事業が遅れている
- C：目標に向け事業がほとんど進んでいない

【今後の方向性】

1. 更に充実強化していく
2. 計画どおり取り組む
3. 一部見直しが必要
4. 事業の休止または廃止

進行管理・評価の流れ



〈基本目標Ⅰ あらゆる分野での男女共同参画の推進〉

施策の基本的方向 1. 政策や方針決定過程などへの女性の参画の推進
 施策の内容(1) 事業所等への女性登用の促進

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の 方向性	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン(5 年間)の 評価	第3次プラン(H23~ H27までの5年間)評 価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値							
1	管理職への女性登用の推進		9	11	20	20	20	前年度に比べ少し下がっているが、実績が目標の7割であることから概ね目標値を達成できる見込である。今後、女性職員の比率が低い年代もあるため、目標値については検討が必要である。	A	平成27年度の全国平均は7.7%であることから、町の現状とほぼ同様であり、公平な人事行政が行われているものと評価する。	A	当初の目標値を変更していることから、当初と比較することは難しいが、実績は概ね目標値を達成できている。	総務課	
	事業所としての町の取り組みとして、能力や意欲のある女性の管理職への登用を推進します。	管理職の職員数における女性の割合(%)	18	19	18	16	14		2					
2	勤労者実態調査の実施		50					アンケートの回収実績値が目標値を下回るので、様々な機会を利用し実施・協力について情報発信方法の検討が必要。		3年ごとの実施のため平成27年度は未実施。次回は平成29年度実施予定。	A	実施した2年度は調査票の回収率が目標値を下回ったが、3年毎に調査を実施し、傾向を読み取ることができた。	産業振興課	
	町内事業所に勤務する労働者の実態を明らかにし、労働行政の基礎資料とすることを目的に3年毎に実施します。その結果を事業所に知らせることにより、女性登用の向上を図ります。	調査票の回収率(%)	43				35		2					

施策の内容（２）町審議会などへの女性委員の登用

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性					
3	女性委員登用の推進		22	24	26	28	30	地方自治法(第202条の3)に基づく審議会等の女性の登用状況 該当する審議会等数 25 総委員数 265人 うち女性委員数 49人 女性委員比率 18.5% 公募委員の選考にあたっては、男女比に配慮して女性委員の登用を進めているが、委員の選出を団体や組織に依頼する機会が多く、その団体や組織の特性から女性が少ないといった個別の状況もある。また、職を指定している場合に、その職に女性が就いていないことも多い。今後は、選出方法の工夫・選出団体への女性登用の意識づけに取り組む必要がある。	B	前年度(H26年度18.9%)より登用率が若干下がったため、目標値に及ばず更なる取組が必要である。審議会等の所管課への働きかけを行うとともに、委員選出団体等に対して女性登用の意識づけ、女性委員選出の働きかけに取り組むことが登用率アップにつながると思う。	B	5年間の実績が目標値を上回ることがなかったため、更に取組が必要。	協働文化推進課	
	町審議会などの職指定委員の見直しを図り、女性委員の登用をより一層推進します。	町審議会の女性委員登用率(%)	18	18	17	19	19		2					

施策の内容（３）住民活動などにおける女性リーダーの登用の促進

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性					
4	女性リーダー育成のための講座の開催		20	20	80	80	80	男女共同参画推進の講座として、神奈川県、藤沢市及び茅ヶ崎市と連携した講座を開催した。 ○男女共同参画推進市町村連携講座「自分らしいリーダーシップ発見講座」 日時:平成28年1月31日(土) 参加者:18人(男性4人、女性14人) 講師:古瀬正也(古瀬ワークショップデザイン事務所 代表) 内容:男女共同参画の視点をもって、地域の課題を解決する人材の育成を目的として実施。3人×6組のグループ分けを行い講座冒頭にミニ講義「数字で見る男女共同参画!」、リーダーシップの体験型学習として、グループ実習、振り返り、分かち合い、全体共有を行い、最後にミニ講義「リーダーとリーダーシップ」を行った。 町以外で開催される講座の情報提供 5件(2市1町広域連携事業)	B	目標値より実績は大きく下回ったが、少人数編成で開催したため、全員が発言でき、年代や性別などの客観的視点も交えたグループワークの利点が発揮できた。	B	講座の参加人数という目標値を下回る年もあったが、毎年異なるテーマで、講座や講演会を開催することができた。 また、町以外で開催される講座等の情報提供もできた。	協働文化推進課	
	女性リーダーとしての資質向上や住民活動への参加意識を一層啓発するための講座を開催します。また、町以外で開催される講座等について情報提供します。	講座の参加人数(人)	73	313	0(162)	50	18		2					

施策の基本的方向 2. 女性のチャレンジ支援
 施策の内容 (1) 女性の人材育成の充実

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性					
5	女性リーダー育成のための講座の開催(再掲)		20	20	80	80	80	男女共同参画推進の講座として、神奈川県、藤沢市及び茅ヶ崎市と連携した講座を開催した。 ○男女共同参画推進市町村連携講座「自分らしいリーダーシップ発見講座」 日時:平成28年1月31日(土) 参加者:18人(男性4人、女性14人) 講師:古瀬正也(古瀬ワークショップデザイン事務所 代表) 内容:男女共同参画の視点をもって、地域の課題を解決する人材の育成を目的として実施。3人×6組のグループ分けを行い講座冒頭にミニ講義「数字で見る男女共同参画!」、リーダーシップの体験型学習として、グループ実習、振り返り、分かち合い、全体共有を行い、最後にミニ講義「リーダーとリーダーシップ」を行った。 町以外で開催される講座の情報提供 5件(2市1町広域連携事業) 女性リーダーの育成や地域活動等への参画促進につながる講座の開催を検討していきたい。	B	目標値より実績は大きく下回ったが、少人数編成で開催したため、全員が発言でき、年代や性別などの客観的視点も交えたグループワークの利点が発揮できた。	B	講座の参加人数という目標値を下回る年もあったが、毎年異なるテーマで、講座や講演会を開催することができた。 また、町以外で開催される講座等の情報提供もできた。	協働文化推進課	
	女性リーダーとしての資質向上や住民活動への参加意識を一層啓発するための講座を開催します。また、町以外で開催される講座等について情報提供します。	講座の参加人数(人)	73	313	0(162)	50	18		2					
6	就労支援パソコン講座の開催		4	4	4	2	2	神奈川県、茅ヶ崎市と共催でパソコン講座を開催。 ○就職に役立つパソコン講座 日時:平成27年11月24日(火)~26日(木) 場所:茅ヶ崎市勤労市民会館 参加者:10人(男女比不明)	A	1回の開催であったが、ワードとエクセルの2講習を開催することができた。 町単独でパソコン講座の実施は難しいため、今後も県や近隣市と連携に努める。	A	講座の開催回数は目標を下回ったが、平成26・27年度と2つの講習を開催することができ、能力開発機会の充実を図る事ができた。	産業振興課	
	中高年の再就職支援、女性の就労支援、スキルアップなどのためのパソコン講座を開催し、能力開発機会の充実を図ります。	開催講座数(講座)	4	0	0	1	1		2					

施策の内容（２）女性の社会参画に関する情報提供

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値							
7	男女共同参画に関する講座の情報提供		4	4	4	4	4	男女共同参画推進の講座として、神奈川県、藤沢市及び茅ヶ崎市と連携した講座を開催した。 ○男女共同参画推進市町村連携講座「自分らしいリーダーシップ発見講座」 日時:平成28年1月31日(土) 参加者:18人(男性4人、女性14人) 講師:古瀬正也(古瀬ワークショップデザイン事務所代表) ○2市1町(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)広域連携事業男女共同参画特別講演会「最後まで自分らしく生きるために」 日時:平成27年11月15日(日) 参加者:89人(男性17人、女性72人) 講師:金子 稚子(ライフ・ターミナル・ネットワーク代表) 町以外で開催される講座の情報提供。 ○2市1町広域連携事業4件 共に生きるフォーラムふじさわ2015「私たちはどうやって働き方を変えたのか～家庭・地域で活躍する男たち～」ほか 講座等の情報を広く集めて提供することで、男女共同参画について学ぶ機会を増やすことができるが、情報量には限界があるためどのような媒体が効果的か調査研究する必要がある。	A	広報紙やホームページ等により、町内外で開催される講座等の情報を提供することで、自己研鑽、スキルアップ等の支援をすることができた。	A	目標値の4回を越えて情報提供できたことで、スキルアップ等の支援につながる機会が増えた。	協働文化推進課	
	町内外で開催される、資格取得やスキルアップのための講座について情報提供をします。	広報紙、ホームページ等での情報提供回数(回)	7	6	5	6	6							
8	求人に関する情報提供		※12	※12	※30	※30	※30	ハローワーク藤沢、鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市と合同で湘南合同就職面接会を開催した。 日時:平成28年1月27日(水) 13時～15時半 場所:藤沢商工会館ミナパーク 町単独での面接会の実施は難しいため、ハローワークや近隣市と連携が必要。	A	求人情報を提供する企業数としては、ほぼ目標値を達成している。今後もハローワーク藤沢、鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市とともに湘南合同就職面接会を実施するとともに、合同面接会の情報発信に努める。	A	目標値を、求人情報を提供する企業数に変更してからは、ほぼ目標値を達成することができた。 町単独での面接会の実施は難しいため、ハローワーク藤沢や近隣市と連携し情報提供をする事ができた。	産業振興課	
	役場ロビーに設置した端末機でのハローワークの求人情報の検索や、求人情報誌・チラシの備え付けによる求人情報の閲覧をできるようにすることで、求人情報を提供します。	※H23～H24年度指標求人情報誌・チラシでの情報提供回数(回) ※H25年度～の指標湘南合同面接会で求人情報を提供できた企業数(社)	0	0	31	28	28							
9	生涯学習に関する情報提供		6	6	6	6	6	男女を問わず、生涯学習に関する情報を提供した。 1.さむかわ町民大学 2.出前講座 3.4.生涯学習人材登録制度「ステップアップ」メニュー紹介用/登録者募集用 5.さむかわ生涯学習総合案内 6.広報さむかわ1月号特集ページに掲載 ○町ホームページの関連ページ訪問数は518件。	A	「さむかわ生涯学習総合案内」を町内の各施設に配下し、広く生涯学習に関する情報提供を行った。紙媒体は文字数等情報量に制限があるため、ホームページ、Twitter、メール配信サービスを活用し情報量の充実をしていく。	A	男女年齢を問わず情報提供を行ったことで、自己研鑽のための学習活動の支援につながった。	協働文化推進課	
	さむかわ町民大学、出前講座、生涯学習人材登録等の学習情報を提供し、自己研鑽のための学習活動を支援します。	広報紙、ホームページ、パンフレットでの啓発回数(回)	6	6	6	6	6							

〈基本目標Ⅱ 男女の人権の尊重〉

施策の基本的方向 1. 異性に対する暴力の根絶

施策の内容(1) 配偶者などからの暴力防止に関する意識啓発と被害者への支援

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の 方向性	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン (5年間)の 評価	第3次プラン(H23~ H27までの5年間)評 価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値							
10	暴力防止に関する意識啓発		2	2	2	2	2	○ホームページの修正を行った。なお27年度における町ホームページの関連ページ訪問数(庁舎外)は162件。 ○2市1町広域連携のなかでDV防止に向けて啓発チラシを作成した。 ○窓口や公共施設のトイレにチラシ等を置き、「DV気づき講座」や相談窓口の情報提供を行った。 今後様々な機会をとらえ、情報発信を行っていけるよう検討していく。	A	寒川町子育て支援センターに伺い、状況をお聞かせいただいた上で、チラシ等の配架にも協力いただくことができ、役場本庁舎や図書館、公民館以外の場所での情報発信を行えたため。	A	全町民に行き渡る広報紙に、6ページに亘る特集を組むなど、効果的な意識啓発が行えたため。	町民窓口課	
	広報紙等を通じてDVに関する情報発信を行い、暴力防止に関する意識啓発を行います。	広報紙、ホームページでの啓発回数(回)	0	1	1	2	1		1					
11	DV等に関する相談や関係機関との連携		5	5	5	5	5	○関係機関との会議 1回 ○関係機関との情報交換 1回 ○町で相談を受けた場合には、茅ヶ崎保健福祉事務所と連携しながら進めている。また茅ヶ崎保健福祉事務所で受けた相談であっても、各種手続きで来庁されるような場合は連携を取り合っている。 今後も、会議での情報交換に限らず、適宜、情報共有できるよう求めていく。	A	茅ヶ崎保健福祉事務所と定期的に情報交換をしていたことにより、スムーズな保護手続きが取れたため。(本人の希望により早期に保護解除となったため、町における経費の負担は発生しなかった)	A	目標値と実績に差はあるが、実際の相談等においては、関係機関との連携は密に行われており、被害者支援は円滑に行われていたため。	町民窓口課	
	関係機関と連携しながらDV等に関する相談を受けるとともに、緊急一時保護事業に関する協定に基づき、DV被害者の緊急一時保護に向けた支援を行います。	関係機関との情報交換機会の回数(回)	1	1	1	2	2		1					

施策の内容（２）セクシュアル・ハラスメント防止対策の推進

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の 方向性	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン (5 年間)の 評価	第3次プラン(H23～ H27までの5年間)評 価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値							
12	町役場におけるセクハラ防止体制の充実	相談と処分の件数 (件)	0	0	0	0	0	セクシュアル・ハラスメント苦情処理委員及び相談員を設置し、体制を整えている。27年度においては第三者からの通報、相談はなかったが、26年度に相談が1件あったことから、引き続き再発防止に努めていく。	A	体制が整っていたことで、今年度は0件であったため評価する。	A	体制が整っていたことで、5年間の実績件数はほとんどなく、目標値を達成できている。	総務課	
	町職員間におけるセクシュアル・ハラスメントの根絶と、相談体制の充実を図ります。		0	0	0	1	0		2					
13	セクハラ防止に関する啓発や各種相談窓口の情報提供	広報紙、ホームページでの啓発回数(回)	2	2	2	2	2	○ホームページの修正を行った。なお27年度における町ホームページの関連ページ訪問数(庁舎外)は76件。 ○相談者には相談窓口の情報提供を行った。今後、より有意義な情報提供をどのように実施していくのかを検討していく。	B	ホームページの修正等を実施し、周知を図ったが、広報紙については掲載できなかった。	B	ホームページでの啓発を実施し、周知を図ったが、広報紙における周知はできなかったため。	町民窓口課	
	広報紙などを活用し、セクシュアル・ハラスメント防止に関する啓発や関係機関における各種相談窓口の情報提供を行います。		0	1	1	1	1		2					

施策の基本的方向 2. 人権尊重のための対策
施策の内容（１）人権侵害に関する支援

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の 方向性	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン (5 年間)の 評価	第3次プラン(H23～ H27までの5年間)評 価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値							
14	各種相談の実施や人権に関する情報提供	街頭での人権啓発活動回数(回)	3	3	4	4	4	○特設人権相談及び街頭啓発活動 6月(1ヶ所)・12月(2ヶ所)実施 ○産業まつりでの啓発活動 11月実施 啓発の効果を量ることは難しいが、現状実施しているもの以外の各種行事などにおいても意識啓発の場を設けるよう検討していく。	A	街頭啓発において、多くの町民に啓発物品と併せてリーフレットを配布し、意識啓発に努めた。	A	地道な啓発活動を積み重ねることができたため。	町民窓口課	
	人権相談など各種相談を実施し、関係機関との連携を図ります。また、人権に関する様々な情報提供を行うとともに、街頭での啓発活動などを通じて町民への意識啓発を行います。		6	3	3	4	4		1					

施策の基本的方向 3. 生涯を通じた心身の健康づくりへの支援
 施策の内容(1) 男女の心とからだの健康づくりへの支援

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン (5年間)の 評価	第3次プラン(H23~ H27までの5年間)評 価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の 方向性					
15	成人健康相談事業	相談の実施回数(回)	50	50	50	50	50	検診や講座の受講者が健康相談もしていくことが増えている。男性より女性の検診受診者、受講者が多いことから、相談数も女性の方が多い。	A	相談回数が目標値を上回った	A	相談者のニーズに応えられている	健康・スポーツ課	
	生活習慣病予防や健康維持・増進のための相談を実施し、町民の健康づくりを支援します。		60	114	298	63	81		2					
16	心とからだに関する講座の開催	セミナー参加延べ人数(人)	280	280	280	280	280	ヨガセミナー 1コース2日を2コース実施。延べ191人。 健康普及講座 ①1コース2日(女性限定コース61人参加) ②1コース2日実施。(男性4人、女性70人) ①、②で延べ135人。	A	リンパマッサージやアンチエイジングなど、講座内容をニーズに合わせて、参加者が増加した。	A	講座内容を検討しながら、ほぼ目標の参加者を達成した。	健康・スポーツ課	
	「ヨガセミナー」「休養とこころのセミナー」など、心身の健康維持・増進を目的とした講座を開催します。		294	243	315	296	326		2					
17	父親・母親教室の開催	参加者の満足度(%)	100	100	100	100	100	4日間1コースを年間5回実施し、延べ妊婦249人 夫81人参加あり。毎コースの4日目を日曜日実施しているため、夫の参加率が上がってきている。母子健康手帳交付時に夫(パートナー)向けのイクメンテキストを配布。	A	夫の参加が日曜日だけでなく、平日に参加される方もおり、夫の参加徐々に増加してきている。	A	これまでの受講勧奨に加え、イクメンテキスト配布により、夫の参加率が上昇した。	健康・スポーツ課	
	初妊婦とそのパートナーを対象に、妊娠・出産・育児や家庭づくり等についての知識の普及と意識の啓発を図ります。		95	96	94.9	95	97		2					
18	母子訪問指導事業	母子訪問合計件数(件)	900	900	900	1,000	1,000	低出生体重児など継続的な訪問が必要なケースの増加により、訪問件数が増えている。	A	訪問件数の増加と、適切な時期に実施ができていることで目標を達成できた。	A	地域の中で安心して子育てができるよう、個別訪問を実施し、不安を軽減することができた。	健康・スポーツ課	
	乳幼児を育てている家庭を訪問し、育児状況の確認とともに、子供と養育者の心とからだの健康づくりへの助言等を行います。		954	1,041	1,172	1,493	1,704		1					

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の 方向性	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン (5年間)の 評価	第3次プラン(H23~ H27までの5年間)評 価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	実績	実績	実績	実績	実績							
19	母子健康相談事業(7か月児 相談2歳児歯科相談)		65	70	75	80	85	それぞれの時期の課題を解決できるよう、7か 月相談と2歳児歯科相談を別日程で実施。 7か月相談 月1回 来所率91.4% 2歳児歯科健診 月1回 う蝕対策予防事業として、2歳児の歯科保健の 指導を充実させ、来所率が72.2%に上昇し た。	A	7か月児、2歳児の相談を別日に 実施し、きめ細やかな対応を行う ことができ、来所率も上昇した。	A	子どもの発育・発達過程に あわせ、適切な支援ができ るよう、柔軟に相談の体制 を変更した。来所率も上昇 し、来所者の不安を軽減で きた。	健康・ スポー ツ課	
	来所による相談事 業の開催を通じ て、乳幼児を育て る家庭の、子ども と養育者の心と からだの健康づく りを支援します。	来所率 (%)	70	71	68	71.7	81.8		1					
20	スポーツ教室の開催		81	162	189	216	243	参加実績:弓道教室10人、テニス教室62人、 卓球教室21人、ボルダリング教室10人、フ ライングディスク教室13人、チャレンジスポー ツ54人、親子テニス教室31人 昨年度実績より人数が減少してしまっ たが、チャレンジスポーツの種目が少 なかったため参加者が半分となっ てしまった。今後は男女とも 気軽に参加出来る種目等の実施 を検討していく。	A	若干、目標値を下回ったが概ね 目標を達成した。 今後、更なる参加者数の増加 のため魅力ある教室の開催を 企画する必要がある。	A	概ね、心とからだの健康づく りの役割を担うスポーツ・レ クリエーションに多くの町民 に親しんでいただける教室 の開催が出来たと評価して いる。	健康・ スポー ツ課	
	心とからだの健康 づくりの役割を担 うスポーツ・レク リエーションに多 くの町民が親しめ る機会として、初 心者向けの教室を 開催します。	教室への参 加者数 (人)	150	91	123	288	201		3					
21	スポーツ大会の開催		1,200	1,260	1,320	1,380	1,450	参加実績:さむかわスポーツデイ1553人、レク リエーションフェスティバル492人、武道フェ スティバル450人、観桜駅伝競走大会628人、 チャレンジ14915人 昨年度実績より大幅に数字が伸びた 要因としては、27年度に初参加 したチャレンジデーに多くの 方に参加いただけたことが大き い。	A	ほぼ毎年度目標数値は上回っ た。初参加のチャレンジデーの 実施が大きく参加者数を伸ば せた。	A	多くの町民等に参加いただ けた各スポーツ大会を開催 し、町民の健康づくりに役立 てることが出来たことを評価 する。	健康・ スポー ツ課	
	町民がやりがい を感じたり目標設 定しながら、継続 的に健康づくり のためのスポーツ ・レクリエーション 活動に取り組める よう、スポーツや レクリエーション の大会を開催し ます。	大会への参 加者数 (人)	1,311	2,166	2,536	1,252	18,038		2					
22	公民館講座の開催		7,000	7,050	7,100	7,150	7,200	公民館まつりが天候に恵まれ来館者数4600 人(概算)と好調だった。13%増の8664人の 参加だった。公民館まつりは老若男女問わず 参加者、来館者がいるので今後も続けるが、 集計方法を確立していきたい。まつりの参 加人数に左右される傾向がある。	A	講座4450人 読み聞かせ386人 まつりと読み聞かせを除く参加 人数4450人。概ね達成でき たといえる。	A	目標値を達成するよう講座 を開催し、男女年齢問わず 興味を持つような内容を企 画立案した。 参加しやすい開催日時等 の設定に努めた。 生涯学習推進員や利用者 の会の協力があった。	町民セ ンター	
	公民館講座を通じ て健康に対する意 識付けを図るな ど、町民の健康 づくりを支援し ます。	講座の参 加者数 (人)	6,982	6,562	7,488	7,339	8,664		2					

施策の内容（２）性の尊重に関する意識啓発

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン (5年間)の 評価	第3次プラン(H23~ H27までの5年間)評 価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の 方向性					
23	父親・母親教室の開催（再掲）	参加者の満足度（%）	100	100	100	100	100	4日間1コースを年間5回実施し、延べ妊婦249人 夫81人参加あり。毎コースの4日目を日曜日実施しているため、夫の参加率が上がってきている。母子健康手帳交付時に夫（パートナー）向けのイクメンテキストを配布。	A	夫の参加が日曜日だけでなく、平日に参加される方もおり、夫の参加徐々に増加してきている。	A	これまでの受講動員に加え、イクメンテキスト配布により、夫の参加率が上昇した。	健康・スポーツ課	
	妊娠・出産・育児や家庭づくり等についての講座を通じて、お互いの性を尊重することの意識啓発を図ります。		95	96	94.9	95.3	97		2					

施策の内容（３）性教育の充実

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン (5年間)の 評価	第3次プラン(H23~ H27までの5年間)評 価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の 方向性					
24	母子健康相談事業	広報紙での周知回数（回）	1	1	12	12	12	相談件数は月1回程度と横ばい。男性からの相談が多い。	A	電話での相談に保健師が対応出来ている。	A	直接の相談件数は少ないが、広報で周知することで、定着が図れた。	健康・スポーツ課	
	性に関する相談について、電話等で相談に対応するとともに、関係機関が実施する相談事業などの情報を提供します。		1	12	12	12	12		2					
25	「生きる力」の育成事業	性教育実施時間数（時間）	10	10	10	10	10	学習指導要領に基づき、小・中学校の各学年における教科、道徳、総合的な学習の時間等を通して、実態に即した適切な性教育が推進された。今後も社会的な側面での人間尊重・男女平等の観点に基づき、教育活動全体を通して、児童生徒の発達段階をふまえた性教育および様々な性に関する現代的課題（性同一性問題など）にも取り組む必要である。	A	各小中学校において、児童生徒の健やかな心身の育成のためには、性教育は重要な領域の一部である。担任や教科担当を中心に、学年全体や養護教諭と連携を図った性教育の授業実践が行われている。以前行われていた男女別の性教育ではなく、命の誕生やジェンダー、性同一性問題など発達段階に応じた教育実践が行われている。	A	性教育は今や「生きる教育」とも言える。実施目標時間数の10時間は各学校、学年における時間数の合計である。学校では心のバランスや成長に即した教育カリキュラムがあり、家庭との連携も大切である。評価にあたっては、実際に数値でその効果を示すことは難しいが、教育現場では時代のニーズに合った内容、指導の工夫が毎年行われている。今後も家庭との連携や現代的な課題に取り組むよう推進していく。	学校教育課	
	教科や道徳の時間、総合的な学習の時間等を通して、性教育を推進します。		10	10	10	10	10		2					

〈基本目標Ⅲ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）推進のための環境づくり〉

施策の基本的方向 1. 就業環境における男女共同参画の促進
 施策の内容（1）男女平等な雇用の促進

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン (5年間)の 評価	第3次プラン(H23~ H27までの5年間)評 価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の 方向性					
26	勤労者実態調査の実施 (再掲)		50			55		アンケートの回収実績値が目標値を下回るの で、様々な機会を利用し実施・協力について情 報発信方法の検討が必要。		3年ごとの実施のため平成27年度 は未実施。次回は平成29年度実 施予定。	A	実施した2年度は調査票の 回収率が目標値を下回った が、3年毎に調査を実施し、 傾向を読み取ることができ た。	産業振 興課	
		町内事業所に勤務 する労働者の実態 を明らかにし、労 働行政の基礎資料 とすることを目的 に3年毎に実施し ます。その結果を 事業所に知らせる ことにより、男女 平等雇用の意識を 喚起します。	調査票の回 収率(%)	43			35							

施策の内容（２）雇用環境改善のための支援の充実

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性					
27	労働相談に関する情報提供		3	3	3	3	3	広報紙の掲載が難しい場合は、ホームページやメーリングリストを活用し、情報提供に努めている。	A	インターネットを活用することで、柔軟かつ効率的に情報提供をすることができた。	A	広報紙のみならず、ホームページやメーリングリスト等インターネットを活用しながら効率的に情報提供する事ができた。	産業振興課	
	広報紙、ホームページ等での情報提供回数(回)	3	3	3	3	3	2							
28	労働相談の実施		1	1	1	1	1	町単独での相談会の実施は難しいため、ハローワーク主催の事前セミナーや相談会を活用した。	A	ハローワーク藤沢等と連携し、実施することができた。	A	ハローワーク藤沢、鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市と連携しながら計画期間中、労働に関する相談会を実施する事ができた。	産業振興課	
	ハローワーク藤沢管内の3市1町で実施する湘南就職面接会時において、労働者向けに労働に関する相談会を実施します。※雇用情勢により実施しない場合もあります。	実施回数(回)	1	1	1	1	1		2					
29	労働講座の開催		1	1	1	1	1	労政問題懇話会と連携し講座を開催。 ○マイナンバー制度について 日時:平成27年10月15日(木) 午後6時半から 場所:寒川町民センター視聴覚室 参加者:60人(男性50人、女性10人)	A	マイナンバーの通知に合わせ、労政問題懇話会と連携し講座を実施することができた。	A	計画期間中、労政問題懇話会と連携し、毎年労働講座を開催する事ができた。	産業振興課	
	労政問題懇話会及び県との共催により、労働環境に関する講座を実施します。	開催回数(回)	1	1	1	1	1		2					

施策の内容（3）育児・介護休業などの制度の周知及び普及の促進

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値							
30	育児休業取得の促進		※3	※5	※1	※1	※1	女性職員の取得に対し男性職員の取得状況は低い。職員間での意識を高めていく必要がある。	A	今年度は取得予定者が取得できたことは評価する。しかし、職場の雰囲気や業務体制により積極的に取得できる状況には至っていないことから、職場や所属長に対する啓発の強化や代替職員の充実が必要である。	A	取得予定者の有無により実績も違ってくるが、取得予定者が取得できてきていることは、目標値を達成できている。	総務課	
	町職員が育児休業を取得しやすい環境を整備し、子育ての支援を図ります。	※H23~H24年度指標 男性職員の育児休業取得率(%) ※H25年度~の指標 男性職員の育児休業取得者数(人)	0	20	1	1	5		1					
31	勤労者実態調査の実施(再掲)		50			55		アンケートの回収実績値が目標値を下回るので、様々な機会を利用し実施・協力について情報発信方法の検討が必要。		3年ごとの実施のため平成27年度は未実施。次回は平成29年度実施予定。	A	実施した2年度は調査票の回収率が目標値を下回ったが、3年毎に調査を実施し、傾向を読み取ることができた。	産業振興課	
	町内事業所に勤務する労働者の実態を明らかにし、労働行政の基礎資料とすることを目的に3年毎に実施します。その結果を事業所に知らせることにより、制度の周知や普及の促進を図ります。	調査票の回収率(%)	43			35			2					

施策の基本的方向 2. 仕事と家庭・地域活動との両立の支援
 施策の内容(1) 子育て環境の充実

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性					
32	町立保育園通常保育事業		540	540	540	630	630	認可保育所に通常保育事業の実施を委託し、併せて事業に対する助成を行った。	A	保育の必要性のある児童を認可保育所において保育することで、保護者の就労を支援した。	A	定員を超えた受け入れを行っており、保護者の就労の継続的な支援を行った。	子ども青少年課	
	※H23~25年度 保護者の就労等により家庭等で保育することが困難な児童の保育を、町立保育園で実施します。 ※H26~27年度 保護者の就労等により家庭等で保育することが困難な児童の保育を、認可保育所に委託し事業に対し助成を行います。	利用者数(人)	576	592	607	609	668		2					
33	延長保育の充実		100	100	100	100	100	月曜日~土曜日の18:00~19:00の時間帯において、希望者に対して保育所が実施した延長保育事業に対し、助成を行った。	A	認可保育所に延長保育実施に対して助成を行い、多様な形態で就労する保護者を支援した。	A	認可保育所に延長保育実施に対して助成を行い、多様な形態で就労する保護者を支援した。	子ども青少年課	
	※H23~25年度 保護者の就労形態の多様化に対応した、町立保育園での延長保育を実施します。 ※H26~27年度 保護者の就労形態の多様化に対応するため、町内認可保育所に延長保育実施も含めて保育事業を委託し、さらに延長保育の実施に対し助成を行います。	延長保育希望者の利用率(%)	100	100	100	100	100		2					
34	子育て支援相談事業		100	100	100	100	100	相談日:月から金 9:00~16:00 相談件数317件 課題等:育児不安を抱える家庭は、増加の傾向にあり、相談内容も多岐に渡り複雑化・長期化の傾向がある。H28年度より、相談員を1名増員(2名体制)して取り組んでいく。	A	他機関との連携を含む継続フォローや指導等、悩みを抱える子育て家庭への負担軽減を図った。	A	子育てに不安を抱える家庭は、年々増加の傾向にあり、その内容は、複雑化・長期化の傾向にある。相談日を増やすことにより、必要なときにすぐに対応できる体制づくりの構築ができた。	子ども青少年課	
	子育て全般についての相談指導と育児情報の提供を行います。	相談への対応率(%)	100	100	100	100	100		1					
35	児童クラブ運営事業		190	195	200	200	200	開所日294日 自宅で保育を受けることができない児童を受け入れることにより、保護者の就労や女性の社会進出を支援する。各児童クラブの運営負担を軽減するため寒川学童保育会に一括して運営委託を行った。	A	共働きの家庭に残された子どもが安心して放課後を過ごせるよう、今後も同事業を継続していく。	A	入所希望者が増加している中、各児童クラブを整備し定員の増を図った。	子ども青少年課	
	保護者が労働等により放課後昼間家庭にいない児童に、放課後の適切な遊びや生活の場を与え、児童の健全な育成を推進します。	入所児童数(人)	148	160	171	163	186		1					

施策の内容（２）ひとり親家庭への支援

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン (5年間)の 評価	第3次プラン(H23~ H27までの5年間)評 価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の 方向性					
36	ひとり親家庭等医療費助成事業	助成対象者 数(人)	800	800	800	800	800	ひとり親家庭等医療費助成事業の該当者に対し、周知及び助成を実施した。	A	申請主義であるため未申請者はいるが、全ての対象者に対して周知を実施した。	A	申請主義であるため未申請者はいるが、全ての対象者に対して周知を実施した。	子ども 青少年 課	
	ひとり親家庭等の人が病院等を受診したときに支払う医療費のうち、保険診療分の自己負担額を助成します(所得制限有り)。		実績	実績	実績	実績	実績		2					

施策の内容（３）男性の家事・育児・介護などへの参加の促進

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン (5年間)の 評価	第3次プラン(H23~ H27までの5年間)評 価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の 方向性					
37	父親・母親教室の開催(再掲)	参加者の満足度(%)	100	100	100	100	100	4日間1コースを年間5回実施し、延べ妊婦249人 夫81人参加あり。毎コースの4日目を日曜日実施しているため、夫の参加率が上がってきている。母子健康手帳交付時に夫(パートナー)向けのイクメンテキストを配布。	A	夫の参加が日曜日だけでなく、平日に参加される方もおり、夫の参加徐々に増加してきている。	A	これまでの受講勧奨に加え、イクメンテキスト配布により、夫の参加率が上昇した。	健康・ スポー ツ課	
	初妊婦とそのパートナーを対象に、妊娠・出産・育児や家庭づくり等についての講座の開催を通じて、男女が協力して家事や育児を行うことについて意識啓発を図ります。		実績	実績	実績	実績	実績		2					
38	母子訪問指導事業(再掲)	母子訪問合計件数(件)	900	900	900	1,000	1,000	低出生体重児など継続的な訪問が必要なケースの増加により、訪問件数が増えている。	A	訪問件数の増加と、適切な時期に実施ができていることで目標を達成できた。	A	地域の中で安心して子育てができるよう、個別訪問を実施し、不安を軽減することができた。	健康・ スポー ツ課	
	乳幼児を育てている家庭を訪問し、育児状況の確認や子どもと養育者の心身の健康づくりへの助言等と併せて、男性の育児参加への意識啓発を行います。		実績	実績	実績	実績	実績		1					

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性					
39	母子健康相談事業(7か月児相談2歳児歯科相談)(再掲)	来所率(%)	65	70	75	80	85	それぞれの時期の課題を解決できるよう、7か月相談と2歳児歯科相談を別日程で実施。 7か月相談 月1回 来所率91.4% 2歳児歯科健診 月1回 う蝕対策予防事業として、2歳児の歯科保健の指導を充実させ、来所率が72.2%に上昇した。	A	7か月児、2歳児の相談を別日に実施し、きめ細やかな対応を行うことができ、来所率も上昇した。	A	子どもの発育・発達過程にあわせ、適切な支援ができるよう、柔軟に相談の体制を変更した。来所率も上昇し、来所者の不安を軽減できた。	健康・スポーツ課	
			70	70	68	71.7	81.8		1					
40	家族介護教室・認知症高齢者介護教室の開催	講座参加者合計数(人)	30	30	30	30	30	○家族介護教室 開催日(回数): H28.1/26、2/2、2/9(すべて火曜日)(3回) 参加人数:20人(男性1人、女性19人) ○認知症高齢者介護教室 開催日(回数): H28.2/16、2/23、3/1(すべて火曜日)(3回) 参加人数:10人(男性2人、女性8人) 家族介護教室のプログラムを見直して開催。	A	家族介護教室のプログラム内容を見直して実施したところ、1回あたりの参加人数については改善した。 今後も、男女問わず参加出来る介護教室を開催していく。	A	在宅で介護を行っている家族や、介護に興味がある地域住民に、介護技術や対応方法を習得してもらうための講習会を行ってきた。男女問わず参加出来る講習の機会を提供してきている。	高齢介護課	
	介護技術・対応方法を習得するための講習会の開催を通じて、男女がともに介護を担うことの意識啓発を図ります。		27	40	30	34	30		1					

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性					
41	男女共同参画に関する講座の開催		20	20	80	80	80	男女共同参画推進講座として、神奈川県、藤沢市及び茅ヶ崎市と連携した講座を開催した。 ①男女共同参画推進市町村連携講座「自分らしいリーダーシップ発見講座」 日時:平成28年1月31日(土) 参加者:18人(男性4人、女性14人) 講師:古瀬正也(古瀬ワークショップデザイン事務所代表) 内容:男女共同参画の視点をもって、地域の課題を解決する人材の育成を目的として実施。少人数グループで、リーダーシップの体験型学習として、実習、振り返り、分かち合い、全体共有を行い、講座の冒頭に「数字で見る男女共同参画」、最後に「リーダーとリーダーシップ」のミニ講義を行った。 ②2市1町(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)広域連携事業男女共同参画特別講演会「最後まで自分らしく生きるために」 日時:平成27年11月15日(日) 参加者:89人(男性17人、女性72人) 講師:金子 稚子(ライフ・ターミナル・ネットワーク代表) 内容:講師は流通ジャーナリスト金子哲雄氏の妻であり、夫の闘病と死別を深く体感したことをもとに終末期を迎えるための情報提供やサポート活動を行っている。誰もが必ず迎える死について死生観からとらえた生き方についてご講演いただいた。	A	①少人数編成で開催したため、全員が発言でき、年代や性別などの客観的視点も交えたグループワークの利点が発揮できた。講座終了後のアンケートの感想では、「新しい自分が発見できて良かった」など満足度の高い講座となった。 ②死は自分の遠い将来だけでなく自分や身近な家族などに関係することであり、「死生観を持つ」という切り口でのワーク・ライフ・バランス、自分らしい生き方を考える機会を提供できた。	A	ワーク・ライフ・バランスや防災、意識啓発などのテーマで開催。男女双方とも考えるきっかけづくりができた。	協働文化推進課	
	生活に密着した視点から男女共同参画に関する講座を開催し、男性も家事や育児などに参加しやすくなるよう、きっかけ作りや意識啓発を図ります。	講座の参加人数(人)	73	313	162	169	107							
42	勤労者実態調査の実施(再掲)		50			55		アンケートの回収実績値が目標値を下回るので、様々な機会を利用し実施・協力について情報発信方法の検討が必要。	A	3年ごとの実施のため平成27年度は未実施。次回は平成29年度実施予定。	A	実施した2年度は調査票の回収率が目標値を下回ったが、3年毎に調査を実施し、傾向を読み取ることができた。	産業振興課	
	町内事業所に勤務する労働者の実態を明らかにし、労働行政の基礎資料とすることを目的に3年毎に実施します。その結果を事業所に知らせることにより、従業員が制度を取得しやすくなるよう、制度の周知や普及の促進を図ります。	調査票の回収率(%)	43			35								
43	公民館講座の開催(再掲)		7,000	7,050	7,100	7,150	7,200	公民館まつりが天候に恵まれ来館者数4,600人(概算)と好調だった。13%増の8,664人の参加だった。公民館まつりは老若男女問わず参加者、来館者がいるので今後も続けるが、集計方法を確立していきたい。まつりの参加人数に左右される傾向がある。	A	講座4,450人 読み聞かせ386人 まつりと読み聞かせを除く参加人数4,450人。概ね達成できたといえる。	A	目標値を達成するよう講座を開催し、男女年齢問わず興味を持つような内容を企画立案した。参加しやすい開催日時等の設定に努めた。生涯学習推進員や利用者の会の協力があった。	町民センター	
	公民館講座を通じて、男性の家事・育児・介護への参加に対する意識付けを促進します。	講座の参加者数(人)	6,982	6,562	7,488	7,339	8,664							

施策の内容（４）地域活動への参加の促進

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の 方向性	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン (5年間)の 評価	第3次プラン(H23~ H27までの5年間)評 価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	6	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値							
44	ファミリーサポートセンター事業 育児の援助を受けたい人を行う人が会員となって一時預かり等の事業を行うことにより、育児世代の地域活動への参加を支援します。	活動件数 (件)	1,900	2,100	1,000	1,000	1,000	お願い会員680人、まかせて会員186人、どちらも会員137人 課題等: 依頼会員に比べ提供会員が少ない。事業開始から10年以上が経過し、おねがい会員からどっちもやまかせて会員に登録していただけの会員も多くなっていることから、更に事業の必要性を啓発していく必要がある。	A	子育て家庭に対する経済的負担の軽減と保育ニーズの分散化を狙いとした町一部負担を導入したところ、活動年数は前年比190%となった。	A	子育て家庭は、若年層が多く経済的にも不安を抱えた家庭も多い。H27年度より導入した町一部負担制度は、利用件数から見てもこの事業を必要とする家庭にとっては効果的だったと考えられる。	子ども 青少年 課	
			893	936	1,145	997	1,907		2					
45	生涯学習に関する情報提供（再掲）		6	6	6	6	6	男女を問わず、生涯学習に関する情報を提供した。 1.さむかわ町民大学 2.出前講座 3,4.生涯学習人材登録制度「ステップアップ」メニュー紹介用/登録者募集用 5.さむかわ生涯学習総合案内 6.広報さむかわ1月号特集ページに掲載 ○町ホームページの関連ページ訪問数は518件。	A	「さむかわ生涯学習総合案内」を町内の各施に配下し、広く生涯学習に関する情報提供を行った。紙媒体は文字数等情報量に制限があるため、ホームページ、Twitter、メール配信サービスを活用し情報量の充実をしていく。	A	男女年齢を問わず情報提供を行ったことで、自己研鑽のための学習活動の支援につながった。	協働文化 推進課	
	さむかわ町民大学、出前講座、生涯学習人材登録等の学習情報を提供し、地域活動への参加を支援します。	広報紙、ホームページ、パンフレットでの啓発回数 (回)	6	6	6	6	6		1					

〈基本目標Ⅳ 男女共同参画社会実現のための意識づくり〉

施策の基本的方向 1. 職場や地域における意識づくりの推進
 施策の内容(1) 職場における意識啓発

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値							
46	男女共同参画に関する講座の開催(再掲)		20	20	80	80	80	男女共同参画推進講座として、神奈川県、藤沢市及び茅ヶ崎市と連携した講座を開催した。 ①男女共同参画推進市町村連携講座「自分らしリーダーシップ発見講座」 日時:平成28年1月31日(土) 参加者:18名(男性4名、女性14名) 講師:古瀬正也(古瀬ワークショップデザイン事務所代表) 内容:男女共同参画の視点をもって、地域の課題を解決する人材の育成を目的として実施。少人数グループで、リーダーシップの体験型学習として、実習、振り返り、分かち合い、全体共有を行い、講座の冒頭に「数字で見る男女共同参画」、最後に「リーダーとリーダーシップ」のミニ講義を行った。 ②2市1町(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)広域連携事業男女共同参画特別講演会「最後まで自分らしく生きるために」 日時:平成27年11月15日(日) 参加者:89名(男性17名、女性72名) 講師:金子 稚子(ライフ・ターミナル・ネットワーク代表) 内容:講師は流通ジャーナリスト金子哲雄氏の妻であり、夫の闘病と死別を深く体感したことをもとに終末期を迎えるための情報提供やサポート活動を行っている。誰もが必ず迎える死について死生観からとらえた生き方についてご講演いただいた。 対象を事業所向けに絞った講座ではなかったため、職場における意識啓発に直接つながるものではなかった。育児や介護に男性の参加を促すには、事業所の制度整備や周囲の理解が必要であるので、経営者や労働者も参加できる講座を開催する必要がある。	B	①は地域の課題を解決する人材の育成②はワーク・ライフ・バランスの内容が盛り込まれていたが、事業所(経営者・勤労者)向けの職場の意識啓発に絞って開催したものではなかった。女性の活躍できる社会を目指し男女が平等で働きやすい環境づくりには意識啓発を継続して取り組む必要がある。経営者や勤労者を対象にした講座を実施できるよう県や2市と検討していく。	C	事業所向けの男女共同参画に関する講座を、開催することができなかったため。	協働文化推進課	
	事業所向けの男女共同参画に関する講座を開催し、職場における男女共同参画への意識啓発を図ります。	講座の参加人数(人)	0	0	0(162)	50	107							

施策の内容（２）地域における意識啓発

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性					
47	男女共同参画に関する講座の開催(再掲)		20	20	80	80	80	<p>男女共同参画推進講座として、神奈川県、藤沢市及び茅ヶ崎市と連携した講座を開催した。</p> <p>①男女共同参画推進市町村連携講座「自分らしリーダーシップ発見講座」 日時:平成28年1月31日(土) 参加者:18名(男性4名、女性14名) 講師:古瀬正也(古瀬ワークショップデザイン事務所代表) 内容:男女共同参画の視点をもって、地域の課題を解決する人材の育成を目的として実施。少人数グループで、リーダーシップの体験型学習として、実習、振り返り、分かち合い、全体共有を行い、講座の冒頭に「数字で見る男女共同参画」、最後に「リーダーとリーダーシップ」のミニ講義を行った。</p> <p>②2市1町(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)広域連携事業男女共同参画特別講演会「最後まで自分らしく生きるために」 日時:平成27年11月15日(日) 参加者:89名(男性17名、女性72名) 講師:金子 稚子(ライフ・ターミナル・ネットワーク代表) 内容:講師は流通ジャーナリスト金子哲雄氏の妻であり、夫の闘病と死別を深く体感したことをもとに終末期を迎えるための情報提供やサポート活動を行っている。誰もが必ず迎える死について死生観からとらえた生き方についてご講演いただいた。</p>	A	<p>①少人数編成で開催したため、全員が発言でき、年代や性別などの客観的視点も交えたグループワークの利点が発揮できた。</p> <p>②死は自分の遠い将来だけでなく自分や身近な家族などに関係することであり、「死生観を持つ」という切り口でのワーク・ライフ・バランス、自分らしい生き方を考える機会を提供できた。</p>	A	ワーク・ライフ・バランスや、意識啓発の内容が盛り込まれており、男女双方とも考えるきっかけづくりができた。	協働文化推進課	
	生活に密着した視点から男女共同参画に関する講座を開催し、地域における男女共同参画への意識啓発を図ります。	講座の参加人数(人)	73	313	162	169	107		1					

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性					
48	生涯学習講座などの開催		4	4	4	4	4	<p>各種講座を実施。男女を問わず生涯学習の機会を提供した。</p> <p><教育総務課> 1~3. PTA指導者研修会 5/22(金)(校外研修会)27人(すべて女性) 5/26(火)(広報研修会)23人(すべて女性) 5/28(木)(役員研修会)29人(男性4人、女性25人)</p> <p>4~5. 家庭教育支援事業 「ママパパのための絵本講座」 ・11/7(土)「わらべうたベビーマッサージと絵本でふれあい遊び」22家族(54人) (大人:32人(男性9人、女性23人)/子ども:24人(男性9人、女性15人)) ・11/21「絵本講座」22人(男性15人、女性7人)</p> <p>6. 人権教育事業「傾聴講座」 7/11・18・25・8/1・8(すべて土曜日)のべ45人(男性5人、女性7人)</p> <p><協働文化推進課> 7. 生涯学習支援者研修 「カリスマプランナーに学ぶ!行列のできる講座とチラシの作り方」3/24(木)35人(男性16人、女性22人)</p> <p>8~11.ステップアップPR講座 「レカンフラワー教室」4/24(金)5人(すべて女性)</p> <p>「似合う色で輝くパーソナルカラー教室」 9/3、9/17、10/1、10/15(すべて木曜日)のべ45人(すべて女性)</p> <p>「年末年始フラワーアレンジ作り教室」 12/26(土)16人(すべて女性)</p> <p>「楽しいアロマセラピー教室」3/5(木)5人(すべて女性)</p> <p>12.13文教大学出張講座「近代日本を学ぶ」 2/13(木)11人(男性9人、女性2人) 2/20(土)8人(すべて男性)</p>	A	<p><教育総務課> 目標値を達成した。特に、家庭教育支援事業については、母親だけでなく、父親の参加も狙い、土曜日開催としたため、夫婦で参加した家族もあり、男性の育児参加についても啓発することができた。</p> <p><協働文化推進課> 参加者を考慮し、平日や土曜日に開催した。ステップアップPR講座は登録者から自主企画として実施している。女性の講師が講座を開催するきっかけづくりをすることで、地域活動につながることもできた。参加人数は講座によって差があり、定員を越えて応募のあった講座もあった。学習効果を指導者として活かすこと、町民への学習機会を提供できる両面での生涯学習活動の充実が図れるため、企画をする上での指導助言等の支援を充実させていく。</p>	A	<p><教育総務課> 5年間を通じて、目標値を達成する数の各種講座を実施し、男女問わず生涯学習の機会を提供した。また、男女問わず参加しやすい開催日時等の設定に努めた。</p> <p><協働文化推進課> さまざまなテーマで講座を開催し、機会を提供することで生涯学習をはじめのきっかけづくりができた。</p>	協働文化推進課 教育総務課	
	PTA指導者研修会、家庭教育講演会、人権教育講演会等の講座、講演会を開催して、男女共同参画の意識啓発など生涯学習の機会を提供します。	講座開催回数(回)	18	18	18	13	13							

施策の基本的方向 2. 家庭や学校等における意識づくりの推進
 施策の内容(1) 家庭における意識啓発

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値 実績	目標値 実績	目標値 実績	目標値 実績	目標値 実績							
49	父親・母親教室の開催(再掲)		100	100	100	100	100	4日間1コースを年間5回実施し、延べ妊婦249人 夫81人参加あり。毎コースの4日目を日曜日実施しているため、夫の参加率が上がってきている。母子健康手帳交付時に夫(パートナー)向けのイクメンテキストを配布。	A	夫の参加が日曜日だけでなく、平日に参加される方もおり、夫の参加徐々に増加してきている。	A	これまでの受講勸奨に加え、イクメンテキスト配布により、夫の参加率が上昇した。	健康・スポーツ課	
	初妊婦とそのパートナーを対象にした、妊娠・出産・育児や家庭づくり等についての講座の開催を通じて、男女がお互いを理解し尊重することについて意識啓発を図ります。		95	96	94.9	95.3	97		2					
50	母子訪問指導事業(再掲)		900	900	900	1,000	1,000	低出生体重児など継続的な訪問が必要なケースの増加により、訪問件数が増えている。	A	訪問件数の増加と、適切な時期に実施ができていることで目標を達成できた。	A	地域の中で安心して子育てができるよう、個別訪問を実施し、不安を軽減することができた。	健康・スポーツ課	
	乳幼児を育てている家庭を訪問し、育児状況の確認や子どもと養育者の心身の健康づくりへの助言等と併せて、男性の育児参加への意識啓発を行います。		954	1,041	1,172	1,493	1,704		1					
51	母子健康相談事業(7か月児相談2歳児歯科相談)(再掲)		65	70	75	80	85	それぞれの時期の課題を解決できるよう、7か月相談と2歳児歯科相談を別日程で実施。 7か月相談 月1回 来所率91.4% 2歳児歯科健診 月1回 う蝕対策予防事業として、2歳児の歯科保健の指導を充実させ、来所率が72.2%に上昇した。	A	7か月児、2歳児の相談を別日に実施し、きめ細やかな対応を行うことができ、来所率も上昇した。	A	子どもの発育・発達過程にあわせ、適切な支援ができるよう、柔軟に相談の体制を変更した。来所率も上昇し、来所者の不安を軽減できた。	健康・スポーツ課	
	来所による相談事業の開催を通じて、乳幼児を育てる家庭の、子どもと養育者の心とからだの健康づくりを支援し、男性の育児参加への意識啓発を行います。		70	70	68	71.7	81.8		1					

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性					
52	男女共同参画に関する講座の開催(再掲)		20	20	80	80	80	<p>男女共同参画推進講座として、神奈川県、藤沢市及び茅ヶ崎市と連携した講座を開催した。</p> <p>①男女共同参画推進市町村連携講座「自分らしいリーダーシップ発見講座」 日時:平成28年1月31日(土) 参加者:18人(男性4人、女性14人) 講師:古瀬正也(古瀬ワークショップデザイン事務所代表) 内容:男女共同参画の視点をもって、地域の課題を解決する人材の育成を目的として実施。少人数グループで、リーダーシップの体験型学習として、実習、振り返り、分かち合い、全体共有を行い、講座の冒頭に「数字で見る男女共同参画」、最後に「リーダーとリーダーシップ」のミニ講義を行った。</p> <p>②2市1町(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)広域連携事業男女共同参画特別講演会「最後まで自分らしく生きるために」 日時:平成27年11月15日(日) 参加者:89名(男性17名、女性72名) 講師:金子 稚子(ライフ・ターミナル・ネットワーク代表) 内容:講師は流通ジャーナリスト金子哲雄氏の妻であり、夫の闘病と死別を深く体感したことをもとに終末期を迎えるための情報提供やサポート活動を行っている。誰もが必ず迎える死について死生観からとらえた生き方についてご講演いただいた。</p>	A	<p>①少人数編成で開催したため、全員が発言でき、年代や性別などの客観的視点も交えたグループワークの利点が発揮できた。講座終了後のアンケートの感想では、「新しい自分が発見できて良かった」など満足度の高い講座となった。</p> <p>②死は自分の遠い将来だけでなく自分や身近な家族などに関係することであり、「死生観を持つ」という切り口でのワーク・ライフ・バランス、自分らしい生き方を考える機会を提供できた。</p>	A	ワーク・ライフ・バランスや、意識啓発の内容が盛り込まれており、男女双方とも考えるきっかけづくりができた。	協働文化推進課	
	生活に密着した視点から男女共同参画に関する講座を開催し、家庭における男女共同参画への意識啓発を図ります。	講座の参加人数(人)	73	313	162	169	107							

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン (5年間)の 評価	第3次プラン(H23~ H27までの5年間)評 価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の 方向性					
53	生涯学習講座などの開催(再掲)		4	4	4	4	4	<p>各種講座を実施。男女を問わず生涯学習の機会を提供した。</p> <p><教育総務課> 1~3. PTA指導者研修会 5/22(金)(校外研修会)27人(すべて女性) 5/26(火)(広報研修会)23人(すべて女性) 5/28(木)(役員研修会)29人(男性4人、女性25人)</p> <p>4~5. 家庭教育支援事業 「ママパパのための絵本講座」 ・11/7「わらべうたベビーマッサージと絵本でふれあい遊び」22家族(54人)(大人:32人(男性9人、女性23人)/子ども:24人(男性9人、女性15人)) ・11/21「絵本講座」22人(男性15人・女性7人)</p> <p>6. 人権教育事業「傾聴講座」 7/11・18・25・8/1・8(すべて土曜日)のべ45人(男性5人、女性40人)</p> <p><協働文化推進課> 7. 生涯学習支援者研修 「カリスマプランナーに学ぶ! 行列のできる講座とチラシの作り方」3/24(木)35人(男性16人、女性19人)</p> <p>8.~11.ステップアップPR講座 「レカンフラワー教室」4/24(金)5人(すべて女性) 「似合う色で輝くパーソナルカラー教室」 9/3、9/17、10/1、10/15(すべて木曜日)のべ45人(すべて女性) 「年末年始フラワーアレンジ作り教室」 12/26(土)16人(すべて女性) 「楽しいアロマセラピー教室」 3/5(木)5人(すべて女性)</p> <p>12.13文教大学出張講座「近代日本を学ぶ」 2/13(土)11人(男性9人、女性2人) 2/20(土)8人(すべて男性)</p>	A	<p><教育総務課> 目標値を達成した。特に、家庭教育支援事業については、母親だけでなく、父親の参加も狙い、土曜日開催としたため、夫婦で参加した家族もあり、男性の育児参加についても啓発することができた。</p> <p><協働文化推進課> 参加者を考慮し、平日や土曜日に開催した。ステップアップPR講座は登録者から自主企画として実施している。参加人数は講座によって差があり、定員を越えて応募のあった講座もあった。学習効果を指導者として活かすこと、町民への学習機会を提供できる両面での生涯学習活動の充実が図れるため、企画をする上での指導助言等の支援を充実させていく。</p>	A	<p><教育総務課> 5年間を通じて、目標値を達成する数の各種講座を実施し、男女問わず生涯学習の機会を提供した。また、男女問わず参加しやすい開催日時等の設定に努めた。</p> <p><協働文化推進課> さまざまなテーマで講座を開催し、機会を提供することで生涯学習をはじめのきっかけづくりができた。</p>	協働文化推進課 教育総務課	
	PTA指導者研修会、家庭教育講演会、人権教育講演会等の講座、講演会を開催して、男女共同参画の意識啓発など生涯学習の機会を提供します。	講座開催回数	18	18	18	13	13							

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン (5年間)の 評価	第3次プラン(H23~ H27までの5年間)評 価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の 方向性					
54	公民館講座の開催(再掲)		7,000	7,050	7,100	7,150	7,200	<p>公民館まつりが天候に恵まれ来館者数4600人(概算)と好調だった。13%増の8664人の参加だった。公民館まつりは老若男女問わず参加者、来館者がいるので今後も続けるが、集計方法を確立していきたい。まつりの参加人数に左右される傾向がある。</p>	A	<p>講座4450人 読み聞かせ386人 まつりと読み聞かせを除く参加人数4450人。概ね達成できたといえる。</p>	A	<p>目標値を達成するよう講座を開催し、男女年齢問わず興味を持つような内容を企画立案した。 参加しやすい開催日時等の設定に努めた。 生涯学習推進員や利用者の会の協力があつた。</p>	町民センター	
	公民館講座を通じて、男女共同参画の意識づくりを図ります。	講座の参加者数(人)	6,982	6,562	7,488	7,339	8,664		2					

施策の内容（２）学校等における意識啓発

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23～H27までの5年間)評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見欄	
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値								実績
55	教職員の資質向上事業														
	教職員向け講演会や研修会等を開催し、児童・生徒への人権教育の充実を図ります。	研修会等への参加者数(人)	240	240	240	240	240	教職員研修会(6/1、7/22、8/5、8/6全4回 283名)および教育講演会(2/5 52名)もに於いて、人権感覚を磨き、人権や男女共同参画に配慮した授業づくりや教育課題の解決力の向上などを行い、意識を高めた。	A	本年度も、大変充実した研修会や講演会を開催することができた。「人権教育やインクルーシブ教育」そして男女共協同参画の観点から今後も継続して研修会を行っていく必要がある。	A	毎年有意義な研修会、講演会を重ねてきたことで、人権教育や男女協同参画に対する意識は着実に高まっており、特に学校では当然の社会の在り方として意識されている。	学校教育課		
		246	382	387	296	355		2							
56	中学生人権作文コンテストの実施		200	210	220	230	240	○教頭会で協力を投げかけ、応募者数が飛躍的に増えた。	A	参加者の募集は町立中学校等に対して行っているが、夏休み期間に多くの課題の中から選択することになり、生徒の希望や学校の取り組み方に依存せざるを得ないため、応募者数が少ない状況であったが、教頭会で協力を投げかけ、応募者数が増えたため。	B	参加者の募集は町立中学校等に対して行っているが、夏休み期間に多くの課題の中から選択することになり、生徒の希望や学校の取り組み方に依存せざるを得ないため、安定した応募者数確保に向け更なる検討が必要なため。	町民窓口課		
		関係機関と連携して人権作文コンテストを実施し、人権に対する生徒の意識啓発を図ります。	作文の応募者数(人)	203	103	94	58	247	1						
57	読み聞かせの実施														
	公民館や図書館を活用した読み聞かせを通じて、思いやりや仲良くする心などの人権・男女平等意識を幼児期から育みます。	読み聞かせ、おはなし会への参加者数(人)	720	720	720	720	720	<p><公民館> 北部・南部公民館合わせた集計。386人参加人数は横ばいだが、多種多様な読み手のボランティアの養成が必要である。</p> <p><寒川総合図書館> 毎週土曜日におはなし会、冬にスペシャルおはなし会を開催。 開催回数：50回 参加者数：912人 毎月第4水曜日に3歳児以下を対象とするおひざにだっこのおはなし会を開催 開催回数：12回 参加者数：405人</p> <p>子どもをつれた父親の参加も見られるが、まだ少なく、母親と子どもの参加が多い。父親も参加しやすい雰囲気作りが必要と考える。</p>	A	<p><公民館> 少子化が進んでいる割には前年並みを維持しているため概ね達成できたといえる。</p> <p><寒川総合図書館> 定期的に開催することで、おはなし会は利用者間に浸透している。毎年、対象者の多くが変わる中で目標値を上まわることができている。</p> <p>幼児期から図書に親しむ機会をとおして、父親や母親などが子どもと一緒に参加できる場の提供が行えている。</p>	A	<p><公民館>目標値を達成するよう講座を開催し、男女年齢問わず興味を持つような内容を企画立案した。参加しやすい開催日時等の設定に努めた。生涯学習推進員や利用者の会の協力があつた。</p> <p><寒川総合図書館>おはなし会は、継続的に開催を行っていて、町民に定着しており、毎年、対象者が変わっていくが、毎回、多くの参加を得ている。乳幼児期から親子や家族で本に親しむ機会の提供が行えている。母親と子どもだけではなく、父親と子どもの参加も見られ、子どもたちも皆一緒におはなしを聞いている。</p> <p>子どもたちは様々なストーリーの読み聞かせをとおして、様々な世界や考え方に触れ、自分の世界を広げている。その中で、思いやりや仲良くする心などが育まれている。</p>	町民センター寒川総合図書館		
		1,490	1,446	1,251	1,593	1,703		2							